

健康の源は口にあり

歯と口の健康週間 6月4日～10日

人生100年時代を幸せに生きるため、健康長寿をどう実現していくか。少子高齢化の「先進国」である日本の動向に、世界中が注目している。健康に大きく影響するのが、口腔機能の維持だ。歯と口の機能が弱った状態を指す「オーラルフレイル」は全身の老化の予兆であり、「噛む力」の維持を心掛けることで体の活力を保つことができるとされる。老いは誰にも訪れ、避けられない。人生の後半に、自分の生き方や健康とどう向き合うべきか。6月4日～10日は「歯と口の健康週間」。3期12年間にわたって県政の重責を担った大沢正明知事と県歯科医師会の村山利之会長が、それぞれの立場から歯科口腔保健への思いを語り合った。

(聞き手・上毛新聞社事務取締役 吉田典之)



対 大沢 正明さん 知 事

村山 利之さん 談 県歯科医師会長



● 県民の幸福は 歯科口腔から ●

「経済財政運営と改革の基本方針2018（骨太の方針2018）」には、生涯を通じてあらゆる人に口腔機能管理が必要とする内容が盛り込まれている。中でも、高齢化や少子化といった重要課題と、口腔機能の関係に注目している。

村山会長 6月4日から「歯と口の健康週間」が始まります。「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」とをスローガンに平成元（1989）年から始まった8020（はち・まる・に・まる）運動は、昨年30周年を迎えました。運動開始当初は1割にも満たなかった8020達成者の割合が、2016年は5割を超え、最も成功した国民運動の一つと評価されています。

最近では、歯周病と糖尿病や脳梗塞、心筋梗塞といった全身疾患との深い関係が認識されつつあります。口の働きが衰えれば、健康な人に比べて要介護や死亡のリスクが2倍以上に高まるほか、会話が減って社会的な孤立につながる可能性も指摘されています。

大沢知事 健康の源は、口の中にあるということですが、本県でも高齢者の8020達成率は55%となり、昨年の達成率は50%となり、全国的に51%を上回る数値で、県歯科医師会による周知が結果につながったと感謝しています。



大沢正明知事（右）と県歯科医師会の村山利之会長（群馬県庁応接室）

弱い立場を支える政治

大沢知事

人生100年に向け新「8020」

村山会長

大沢知事 昨春、70年夏の知事選にさかのぼります。保守分裂の構図に5人が出馬する激戦となり、接戦の末に当選。現職との差はわずか1万2800票でした。

村山会長 当時、私は高崎市歯科医師会の会長でした。投票日の2日前、土砂降りの雨の中で駆け付けた総決起集会は、異常なまでの熱気に包まれ、新たな県政への期待が渦巻いていました。おかげでスーツを1

着たにしましたが、それだけの価値のある選挙であり、大沢知事の勇気を目の当たりにした選挙でした。

大沢知事 懐かしい話です。私はかつて自衛隊に入隊していました。志願した理由の一つが、女性や子供など弱い立場にいる人を守りたいという思いでした。県知事に当選した時も、自分の役目は「小さな声を県政に反映させること」と表明しました。その思いは今も、胸に刻まれています。

を返すことができました。障害児の歯科治療は専門的な技術や知識が必要で、一般の歯科治療機関では受け入れが難しいケースもありました。同会の協力によって、県小児医療センター（渋川市北碓町下箱田）に障害児歯科専門の診察体制を整えることができました。

村山会長 県歯科医師会では、県歯科総合衛生センター（前橋市大友町）において週5日、障害児の診療を受け入れています。センターは医療、介護従事者の人たちの研修を行う教育機関としても障害児者の歯科口腔保健の一翼を担っています。県政と歯科口腔保健は違っても障害のある人も健常者と同じ医療を受けられるべきだという思いは同じです。

● しつかり噛んで 第二の人生を ●

● ハンデある人の 自立を支援 ●

大沢知事 昨年4月、高等部の新設などにより、特別支援学校の未設置地域の解消を達成することができました。障害のある子供が地元で学び、地元で働けるような体制が着実に整いつつあります。

特別支援学校の整備に取り組んだきっかけは、11年

知事選の遊説で聞いた保護者の切実な訴えでした。通える学校が近くにないのは、遠くまで通学しなくてはなりません。障害者を遠くで暮らすのではなく、一緒に地域で暮らすべく、一緒に社会で理想の暮らしを。

障害児医療についても、県歯科医師会の協力で充実

村山会長 私が県歯科医師会会長に就任したのは11年。その時から「食べる」と、健康であること、美しくあること、全てが人々の幸せのために、をスローガンに掲げ、県民の生活の質の向上に全力を注いできました。

大沢知事は県政、私は歯科口腔保健の分野から、二足歩で県民の幸福を目指してきました。当時から高齢化が急速に進んでい

にせず受診できる仕組みはありがたいです。私も子育て真っ最中ですが、子育て世代に優しい施策であり、少子化対策としても現実的、かつ有効だと感じています。

大沢知事 少子化対策や子育て環境の充実を図るために、県内どこに住んでいても中卒卒業までの子供が無料で医療を受けられるように制度を整えました。中卒卒業までの医療費無料化に至るプロセスとしては、入院は08年4月に4歳から中学校卒業まで、通院は08年4月に2歳から就学前まで引き上げ、翌09年10月に中卒卒業までに拡大しました。費用は県と市町村で折半しています。

所得制限や、受診時の自己負担がなく、入院・通院ともに中学校卒業までを対象とする県の制度は全国と比較してもトップレベルと自負しています。真に支援が必要な弱い立場の人を支えることが、行政の本来の役割だと感じています。

なぜ老いる？ならば上手に老いるには
—健康長寿 鍵は“フレイル・オーラルフレイル” 予防—

2019年度 群馬県 歯と口の健康週間 県民公開講座

2019年 5月25日(土) 午後2時～4時

群馬会館 入場無料

公益社団法人 群馬県歯科医師会 TEL027-252-0391

東京大学 高齢社会総合研究機構 教授 飯島 勝矢 先生

主催：群馬県・(公社)群馬県歯科医師会 後援：(公社)群馬県医師会・(一社)群馬県薬剤師会